

北海道教育大学紀要 執筆上の注意事項

制 定 令和3年10月27日
北海道教育大学紀要編集委員会

論文は、別紙原稿レイアウトを参照の上、以下に従い作成すること。

1. 使用言語は、原則として日本語又は英語とする。
2. 原稿用紙の大きさは、日本工業規格A4サイズとし、原則として本委員会
が提供するテンプレートを使用して作成する。
3. 表記の方法等は以下に従うものとする。

(1) 1頁の字数等及び刷り上がり頁数

		1頁の字数・行数	刷り上がり頁数
和文	横書・2段組	22字×40行×2段	16頁以内
	横書・1段組	48字×40行	
	縦書・2段組	34字×27行×2段	
英文	横書・2段組	44字×40行×2段	
	横書・1段組	96字×40行	

(2) 文字フォント及び文字の大きさ

文字 フォント	和文	明朝体	
	英文	Times New Roman	
文字の 大きさ	タイトル	12pt	太字
	サブタイトル	10.5pt	
	著者名	10.5pt	
	所属	7.5pt	
	概要	10pt	見出し：太ゴシック体・2行取り
	本文	10pt	見出し：太ゴシック体・2行取り 小見出し：太ゴシック体
	引用・参考文献	8pt	見出し：太ゴシック体・2行取り
	脚注	8pt	
	ヘッダ・フッタ	7.5pt	原稿には記載しなくてよい

- (3) 句読点は、和文横書きの場合は「。」、「、」を使用し、和文縦書きの場合は「。」「、」、英文の場合は「.」「,」を使用する。
- (4) 括弧は全角とし、「—」（ダッシュ）、「…」（三点リーダー）は2文字分記載する。
- (5) 数字は、原則として算用数字を使用する。

4. 論文冒頭に、表題及び著者を、以下に従い記載する。
- (1) 和文原稿については、日本語で表題、著者の氏名及び著者の所属を記載し、横書論文の場合は、その下に、英語で表題、著者の氏名及び著者の所属を記載する。
 - (2) 英文原稿については、英語で表題、著者の氏名及び著者の所属を記載し、その下に、日本語で表題、著者の氏名及び著者の所属を記載する。
 - (3) 英語による表題の記載は、キャピタリゼーションルールに則ったものとする。
 - (4) 著者の記載方法は、以下の記載例及び説明に従うものとする。

【日本語の記載例】

単著の場合	教育 太郎 北海道教育大学札幌校学校教育専攻
共著の場合(1)	教育 太郎・教育 花子 北海道教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻
共著の場合(2)	教育 太郎・教育 花子*・教育 次郎** 北海道教育大学函館校地域協働専攻 *北海道教育大学保健管理センター **〇〇大学〇〇学部

【英語の記載例】

単著の場合	KYOIKU Taro School Education, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education
共著の場合(1)	KYOIKU Taro, KYOIKU Hanako and KYOIKU Jiro Advanced Teacher Professional Development, Graduate School of Education, Hokkaido University of Education
共著の場合(2)	KYOIKU Taro, KYOIKU Hanako* and KYOIKU Jiro** Regional Cooperation, Hakodate Campus, Hokkaido University of Education *Health Administration Center, Hokkaido University of Education **Faculty of〇〇〇, 〇〇〇 University

〈説明〉

- ① 共著の場合は、第一著者名を先頭に記載すること。なお、文責分担を適宜記載することが望ましい。
- ② 責任著者（コレスポন্ディング・オーサー）がいる場合は、責任著者の氏名の右肩にダガー（†）を付け、脚注に連絡先（メールアドレス）を記載することができる。
- ③ 著者の所属は、論文投稿時のものとし、本学在籍者は大学名・キャンパス及び専攻名等又はセンター名、他機関所属者は大学名・学部名等を

記載すること。ただし、退職等により本学に在籍しないこととなった者（名誉教授を除く。）については、本学在籍時のものを記載することができる。

④ 投稿後の異動先が決定している場合は、脚注に異動後の所属を示すことができる。

⑤ 共著の場合は、アスタリスクを付すことにより、所属を区別すること。

5. 論文の概要は、原則として英文200ワード以内又は和文400字以内とし、論文冒頭部と本文との間に記載し、見出しの表記は、「概要」又は「ABSTRACT」とする。

6. 単位は、原則として国際単位系（SI）を使用する。

7. 図表又は写真は、論文中に貼り付ける。ただし、当該図表又は写真を添付したうえで、論文中に、掲載する位置及び大きさ等を明確に記載する方法によることもできる。

8. 引用・参考文献の記載方法は以下のとおりとする。

(1) 文献は、本文の後に、「参考文献」、「引用文献」又は「REFERENCES」との見出しを設けたうえで一括して記載するものとし、記載の順序は第一著者のアルファベット順とする。ただし、本文中に脚注又は注番号を付して引用する場合は、この限りではない。

(2) 文献が論文の場合は、著者名、発行年、論文名、掲載誌名、巻号、ページを記載する。

(3) 文献が書籍の場合は、著者名（又は編著者名、監修者名）、発行年、書名、引用ページ（あるいは総ページ数）、出版社名を記載する。

(4) 文献がウェブサイト中の記事等の場合は、作成者名、作成年、ウェブサイト名称、URL、閲覧年月日を記載する。

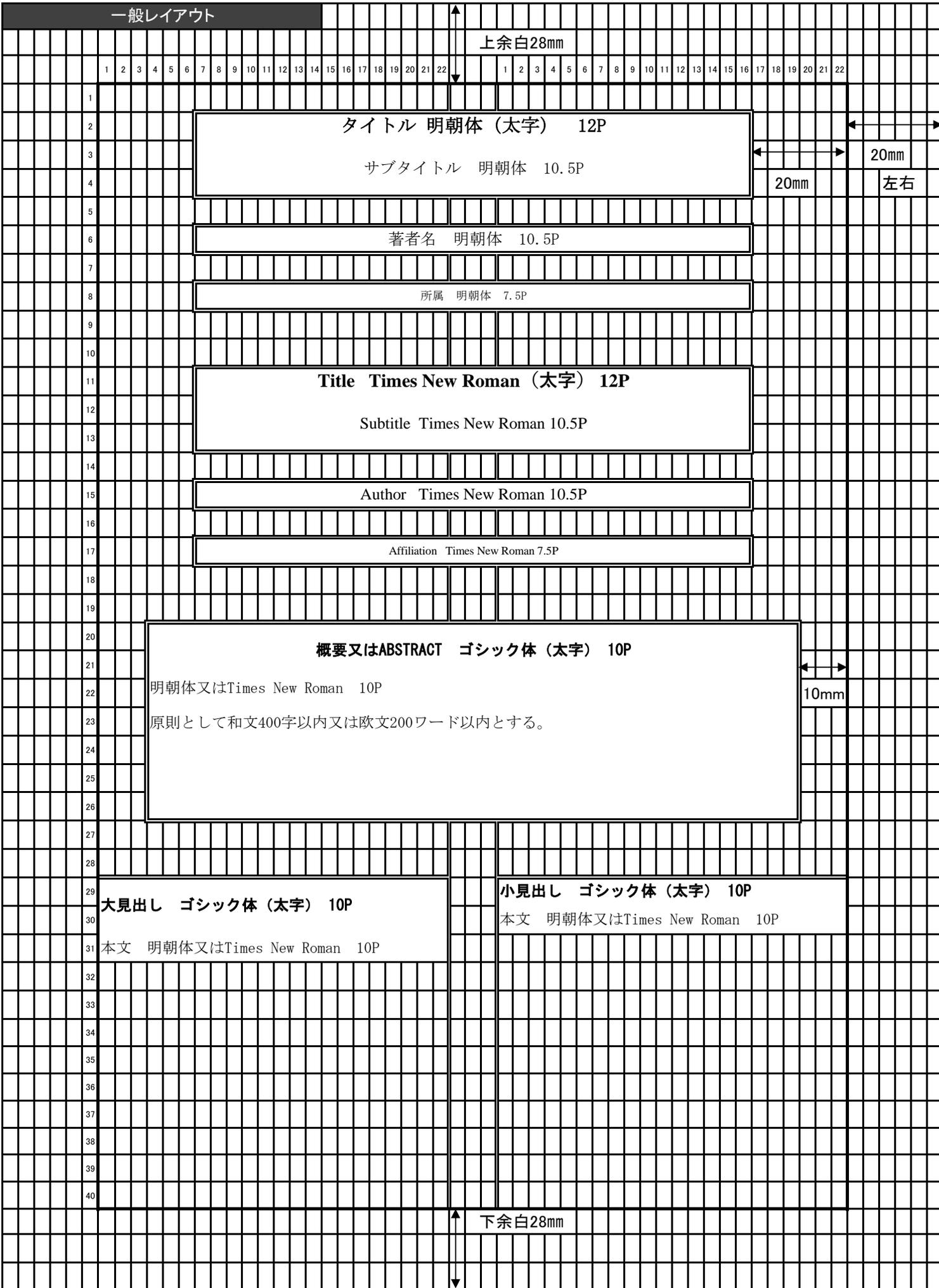
(5) (1)～(4)にかかわらず、学会等が発行する学術雑誌の慣例に従った方法によることができる。ただし、この場合は、投稿申込フォームに当該雑誌名を記入すること。

9. 論文の末尾に、単著の場合は投稿時の所属及び職名を、共著の場合は、著者全員の氏名、及びその投稿時の所属並びに職名を記載する。

単著	(〇〇校准教授)
共著	(教育 太郎 〇〇校教授)
	(教育 花子 〇〇校令和〇年度卒業)
	(教育 次郎 〇〇市立〇〇中学校教諭)

別紙 原稿レイアウト

一般レイアウト



上余白28mm

タイトル 明朝体 (太字) 12P

サブタイトル 明朝体 10.5P

著者名 明朝体 10.5P

所属 明朝体 7.5P

Title Times New Roman (太字) 12P

Subtitle Times New Roman 10.5P

Author Times New Roman 10.5P

Affiliation Times New Roman 7.5P

概要又はABSTRACT ゴシック体 (太字) 10P

明朝体又はTimes New Roman 10P

原則として和文400字以内又は欧文200ワード以内とする。

大見出し ゴシック体 (太字) 10P

本文 明朝体又はTimes New Roman 10P

小見出し ゴシック体 (太字) 10P

本文 明朝体又はTimes New Roman 10P

下余白28mm

学校規模別にみた日常的教育活動の実際

—児童の学校生活意識に着目して—

北 海 太 郎

北海道教育大学札幌校学校教育専攻

A Study of Educational Activities from the Viewpoint of School Size

—Focusing on the Consciousness about School Life of Primary School Children—

HOKKAI Taro

Department of School Education, Hokkaido University of Education, Sapporo

概 要

本稿は、学校規模が教育活動に与える影響を児童の学校生活意識に焦点化して明らかにするものである。同一地域の学校規模が異なる小学校5校を対象に、小学4、5、6年の児童の学校生活の実態と学校生活意識を把握するための質問紙調査を実施した。因子分析の結果、児童の学校生活意識として、「教師への肯定的評価」、「向学校性」、「自己肯定感」の3因子を抽出した。これを基準変数とし、学校規模、学級規模（以下略）

1. 研究の目的(大見出し)

本稿は、学校規模が教育活動に与える影響を与える児童の学校生活意識に焦点化して明らかにする

(1) 調査対象校のプロフィール(小見出し)

本稿は、学校規模が教育活動に与える影響を与える児童の学校生活意識に焦点化して明らかにする

学校規模別にみた日常的教育活動の実際

北海 次郎・北海 三郎*・北海 四郎*

北海道教育大学函館校地域協働専攻

*北海道教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻

A Study of Educational Activities from the Viewpoint of School Size

HOKKAI Jiro, HOKKAI Saburo* and HOKKAI Shiro*

Department of Regional Cooperation, Hokkaido University of Education, Hakodate

*Graduate School of Education, Hokkaido University of Education

概要

本稿は、学校規模が教育活動に与える影響を児童の学校生活意識に焦点化して明らかにするものである。同一地域の学校規模が異なる小学校5校を対象に、小学4, 5, 6年の児童の学校生活の実態と学校生活意識を把握するための質問紙調査を実施した。因子分析の結果、児童の学校生活意識として、「教師への肯定的評価」、「向学校性」、「自己肯定感」の3因子を抽出した。これを基準変数とし
(以下略)

**A Method of Taking a Photomicrograph of a Snow Crystal by
Circular Transmitted Illumination**

HOKKAI Taro

Department of Science Education, Hokkaido University of Education, Asahikawa

雪結晶の環状透過照明による顕微鏡写真撮影法

北海太郎

北海道教育大学旭川校理科教育専攻

ABSTRACT

A new method of taking a photomicrograph of a snow crystal was devised. It was the method of taking a snow crystal picture of a white image against a color or a black background by circular transmitted illumination. The illumination was produced by using a concave mirror of an ordinary biological microscope. Namely, the mirror was covered with a color filter or a blackout disk at the center part and was able to reflect circularly the light at its open side.

The Analysis of the Factor Exerts on the Schoolchild's Sleeping Conditions
— From the Investigation of Lifestyle by the Questionnaire —

HOKKAI Jiro, HOKKAI Saburo* and HOKKAI Shiro*

Department of Regional School Education, Hokkaido University of Education, Kushiro
*Graduate School of Education, Hokkaido University of Education

小学生の睡眠状況に及ぼす要因の解析
— アンケートによる生活調査から —

北海 次郎・北海 三郎*・北海 四郎*

北海道教育大学釧路校地域学校教育実践専攻
*北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床心理専攻

ABSTRACT

We carried out a questionnaire on 435 schoolchildren from 3 to 6 grades in Sapporo region to investigate the lifestyle, and to analyze the factor that exerts on the schoolchild's sleeping conditions. We obtained that problem on health with the child's sleep was correlate with lifestyles by statistical analysis of the questionnaire and discussions. And we obtained the following. Children rising grade take the delay of going to bed, and shortening of the hours of sleep were seen and feeling fatigue were increased.

27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

本文ここから

見出し

自己(たち)が存在者に存在することの意味を付与する世界の主体だと考え、さらには大地の支配をめぐって相争うのは、近現代の本質的動向である。力の獲得が目的であって、存在者はそのための価値としてのみ存在意味を認められる。(以下略)

概要

北海道教育大学岩見沢校美術文化専攻
北
海
五
郎

北海道教育大学岩見沢校美術文化専攻

意味付与という病

——ハイデガーを手がかりに——

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34